





# 桑港の英字新聞同盟

内幕曝露

黙殺と攻撃を武器として

押が強ければ社会を動かせる

平氣で嘘を書くハースト系新聞

口ばかも吐いて居るのは

開社達は正しい事は書かずす

が當地に来遊の際、痛罵した

でもあるが近頃桑港の英字新

聞社達は正直い居るのは

が當地に来遊の際、痛罵した

が当地に









# 不鳴千鳥

(四九) 長谷川伸

をしてしまつたらしい様子です。

を運営して柏谷は犯事事實を明

らかに思つたら江崎の家で

遂ふた桜さんちを

「へい、たかい事で」

うの言葉半に辨慶は袂を長太に

曳かれましたので会話を一つし

て見せながら更めて辨儀をしま

した、立去らうとするのです。

「提さん何處へ行かれるか知る

が、お忙しいかな」

へんてと抜けられねば急用な

んで失禮いたします」

では致方がない、たゞ別れしま

せう、ちやが、その後枝の行

方について聞いて事はあります

が、あれでは別

らあね」

「ちや急ぎさせ

う」

「急く事はねの

うでこれから

の帳場は永けに

梅つてらあ、フ

ウツク雪が又自暴に降つて來や

がつたせ」

丁度いやね、に詫へ向きち

やねかね親分」

「さうだなあ」

二人は顔を見合せると思はず踏

み出す足を忘れました、最う親

明する迄もないのでせう、此の二人

がりも何しに行かうとするのか

が、急がうて云ひながら故に電車に

乗らず事に乗る、かういふ行動

二人は車を見つけて行く先は

じだ轟駄の方へとゆき、太郎が

既に變化と推されねばなりま

すまい。

明瞭観いて置きませう、辨慶は

故に三觀の復讐の刃を大油治

一郎に加へて逃げに代つて罪を引

けて逃げた者となる役の目年の

長太は、成行きを後見する格で

跟いて來てるのです。

話は半端だが最もこれだけで辨

慶等は充分なのです、遂々熊崎

が當てます。

○巡査の先生たは長屋で義やまれ

てます。

○巡査の増交番が小豆そう

が當てます。

○巡査の先生たは長屋で義やまれ

てます。

○巡査の先生たは長屋で義やまれ